

令和5年度黒羽高等学校自己評価結果

教育目標 1 進んで学び 思考力を培う 2 心身を鍛え 根気を養う 3 責任を重んじ 勤労を尊ぶ
--

努力点と具体策 1 学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。 2 進路指導の充実・強化を図り、進路目標実現を支援する。 3 生徒会活動及び部活動を奨励し、自主性・自立性を育成する。 4 生徒指導を充実させて、規範意識の醸成と規律ある生活習慣を確立させる。 5 地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。
--

目指す学校像 ○ 個に応じた指導を充実し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、主体的に学習する態度を育成する学校 ○ 生徒主体の学校行事や部活動などを充実させ、自他を尊重する心や積極的に責任を果たそうとする態度・行動力を育成する学校 ○ 組織的な生徒指導を推進し、規範意識の醸成と規律ある生活習慣を育成する学校 ○ 地域との交流を推進し、奉仕や勤労を尊び、進んで地域社会に貢献しようとする態度を育成する学校

評価の観点及び評価基準 A;達成できた B;概ね達成できた C;あまり達成できなかった D;達成できなかった
--

取組・達成状況・次年度への課題

		評価項目	評価結果	今後の改善方策等	
部	教務	○ 適切な年間行事編成に向けての校内行事の精選	次年度の年間行事編成においては、同一行事の年間の実施回数や短縮授業日を減らす方向で検討するなど、授業時間の確保と行事の精選をすすめた。	B	次年度からのクラス数と職員数の減少をふまえて、行事の精選をさらに進めていく。
		○ 校内外に向けての情報発信の強化(HPの更新頻度を上げる)	声かけと協力により、特に部活動に関する記事の、HP更新頻度を上げることができた。	B	HPの更新頻度を上げるだけでなく、見る側にとっても面白い内容にする必要がある。
	学習	○ 授業ファースト（できる・わかる・考える授業）の徹底	予鈴着席、本鈴実施の意識はできている。今後、生徒の授業への意識の高揚を目指したい。	B	授業を大切にすると雰囲気醸成。授業に向かう意識を高めさせ、家庭での学習を学校での学びから継続できるようにする。基礎学力の定着をめざす。
		○ 観点別学習状況評価の適切な運用と研究	各教科で検討された観点ごとの評価を生徒に示すことができた。	B	評価方法の研究の継続。各教科で適切な運用に向けた検討を図り、各教科で集まり情報交換・共通理解の機会をもつようにする。
	特活	○ 学校行事における生徒会と委員会活動の連携強化	各行事で生徒会や委員会が連携でき、特に体育祭は役割を分担して実施することができた。	B	委員会によっては活動自体が不十分だったところもあったので、各委員会で活動内容の検討や見直しが必要がある。また、委員会活動の主体性を高めるため、生徒会役員との連携を図り、活動の幅を広げる。
		○ 諸活動の情報発信の促進	部活動のこまめなHP更新や、体育祭でのYouTube配信を適切に行うことができた。	B	職員内で声かけがあったことで、昨年度よりも部活動全体のHP更新頻度が上がったが、依然として部活動で差が見られる。そのため、情報発信を活性化するための方法について改めて検討する。また、HP以外にも外部に情報発信できるような形を模索する。
	生徒	○ 校内・校外生活での規範意識の向上	おおむね生徒の多くが理解をして学校内外で生活を送っていた	B	校則改定でスマホ使用場所の拡大や頭髮検査の見直しが行われたが、曖昧な部分も残しているので生徒指導部で協議したい。
		○ 遅刻・欠席・早退指導の周知と情報共有の徹底	遅刻・欠席・早退理由不明の生徒が多いが、全体の周知が不足していた。	C	生活習慣が不規則な生徒が増えているので、生活習慣指導の徹底を図りたい。
	健康	○ 危機管理体制の強化	安全衛生委員会から今後事故の発生する可能性のある箇所の整備をすることができた。	B	毎月の安全点検や危険箇所の修理依頼の呼びかけを行っていく。
		○ 校内の環境整備と美化活動の強化	大掃除・清掃強化週間を利用し、計画通りの環境整備に取り組むことができた。	B	毎日の清掃を重視し、時間一杯の清掃をしていきたい。
	進路	○ 各教科との連携により、進路に応じた学力を身につけさせる	教科・学年によっては昨年度以上にスタディサプリの使用頻度が上がった。また、進研模試受験者も増加、一般入試で国公立大学受験者も出た。	B	スタディサプリは学年担当職員とさらに綿密に連携をとり、基礎学力を着実につけさせたい。進研模試受験の声かけも進学係から積極的に行いたい。
		○ 生徒に就職・進学指導室を利用させ、適切な情報や資料を提供する	指導室利用のオリエンテーションを実施することはできたが、利用者の大幅な増加にまでは至っていない。	B	曜日ごとに優先的に利用できる学年を設定するなど、特に1・2学年の利用率を上げていきたい。
	渉外	○ PTA各種行事の見直しと円滑な運営	PTA組織と活動の在り方について検討し、支部制の廃止など見直しを図ることができた。	B	新たな形となった組織でのPTA行事等の立案、及び円滑な運営に取り組む。
		○ 同窓会各種行事の円滑な運営	4年ぶりに同窓会総会・10年会を実施することができた。	A	各種行事の円滑な運営（10年会等）に取り組む。
学年	1	○ 基本的な生活習慣の確立	おおむね満足できる状況だと考える。欠席や遅刻が増えている生徒には、改善を促せるように保護者の協力等も得ながら、連携して支援していきたい。	B	学校生活への慣れが、生活習慣のたるみに繋がらないよう継続した指導、支援をしていきたい。
		○ 基礎学力の定着	おおむね満足できる状況だと考えるが、今一つ学習習慣が身につけていない生徒への指導をより丁寧にしていくとともに、全体に向けての工夫も必要だと考える。	B	朝の読書の時間に学習（スタサプや小プリント等）をする日を設けるなど、学習習慣がより身につくように工夫していきたい。
	2	○ 自己理解の促進	体育祭、修学旅行などの学校行事を経て、自己理解が進んだという実感がある。自分の苦手分野、友達の個性などを理解しながら活動の工夫ができていた。	A	進路実現に向けて、一層の自己理解を進めたい。
		○ 進路意識の高揚	幼さから脱却できない生徒が多く、進路についての現実味がないまま後半に突入したが、修学旅行明けから徐々に前向きに取り組む様子が見られた。	B	生徒との面談、保護者との連携を徹底していく。進路指導部と協力体制を強化していく。
	3	○ 積極性と協調性を持って取り組める生徒の育成	コロナ禍により人間関係の構築を苦手とする学年であるが、体育祭などの学校行事へ協力しながら積極的に取り組むことができた。	B	
		○ 進路目標の達成	自己理解が進まず、希望進路の決定に時間を要する生徒が見受けられたが、ほとんどの生徒が進路目標を達成することができた。	B	